

南硫黄島の海洋生物

佐々木哲朗, 堀越和夫

Marine animals of Minami-Iwo-To Island

Tetsuro SASAKI & Kazuo HORIKOSHI

小笠原自然文化研究所 (東京都小笠原村父島宮之浜道)

Institute of Boninology, Miyanohamamichi, Chichijima, Ogasawara, Tokyo 100-2101

要旨

南硫黄島周辺海域において、貝類、甲殻類および魚類の動物相調査を行った。同定作業は継続中であるが、現在までに27科53種の貝類、4科9種の甲殻類、22科63種の魚類を確認した。確認種は南硫黄島からの新記録種を多数含むが、多くは小笠原群島にも分布する種で占められていた。

1. はじめに

南硫黄島は火山列島の南端に位置する海洋島である。島には湾や入り江が存在しないため、海岸線のすべてが外洋に面しており、潮間帯は波あたりの強い岩礁性海岸となっている。海底には黒い砂地が広がり、島を取り囲むように巨岩が点在している。海岸から水深約40~50mまでは緩やかに深度を増すが、それ以降、急激に落ち込んでいる。

南硫黄島周辺海域は底魚一本釣漁業が営まれているが、島に人が上陸することは希であるため、人為的影響の少ない、保存度の高い海岸を維持しているものと考えられる。当海域における主要な海洋生物相調査は、1985年に行われた東京都水産試験場の大島分場および小笠原水産センターによる合同調査があげられ、11種以上の造礁サンゴ類(ミドリイシ属は全て *Acropora* spp.として表記されている)、56種の貝類、7種の甲殻類、7種の棘皮動物および84種の魚類を記録している(東京都水産試験場, 1994; 西村, 1988)。しかし、これ以外に行われた海洋生物調査に関する報告は断片的であり、南硫黄島周辺海域の海洋生物相を把握するには至っていない。

本調査では、南硫黄島海域の海洋生物相の情報を追加更新することを目的とし、造礁サンゴ類、貝類、甲殻類および魚類の分布調査を実施した。なお、造礁サンゴ類に関しては標本の詳細な検討を行った後、別の機会に報告したい。

2. 方法

2-1. 対象分類群

本調査で対象とした海洋生物は、花虫綱イシサンゴ目に属する造礁サンゴ類(佐々木ら 準備中)、軟体動物門に属する貝類、軟甲綱十脚目に属する甲殻類および軟骨魚綱、硬骨魚綱に属する魚類とした。

2-2. 調査方法および調査地点

貝類相の調査は潮下帯におけるスクーバ潜水、スキンドайビング、ドレッジ（採泥器）による採集および潮間帯から潮上帯における磯採集により行った。スクーバ潜水による採集地点は、島の北東に位置する水深約 16m の地点（図 1, SC01）であり、スキンドайビングによる採集地点は島の南に位置する調査隊ベースキャンプ沖の水深約 3m から 5m の地点（図 1, SK01）である。ドレッジによる採集調査は、島の北西沖から南西沖にかけての 9 地点において行った（図 1, D01～D09）。磯採集は島の南岸に位置する、上調査ルート登攀口付近から島の南東端の間の範囲において行った（図 1, IN01）。

甲殻類相の調査は、ドレッジによる採集および磯採集において行った。ドレッジ調査を行った地点および磯採集を行った地点は、貝類相調査と同様である。

魚類相調査は、主に潮下帯においてスクーバダイビングおよびスキンドайビングにより行った。スクーバダイビングによる調査地点は、島の北西沖に位置する水深約 16m の地点（図 1, SC01）、島の南に位置する陸上調査ルート登坂口沖の水深約 12m から 15m の地点（図 1, SC03）において行った。スキンドайビングによる調査は、調査隊ベースキャンプ沖の水深約 3m から 5m の地点で行った。各地点では写真撮影およびビデオ撮影を行い、後に同定を行った。また、ドレッジ調査において混獲された個体、磯採集において得られた個体も対象とした。ドレッジ調査および磯採集を行った地点は貝類相調査と同様である。

3. 結果

3-1. 造礁サンゴ類

標本を採取し、現在までに同定作業を行った貝類は、以下に示す 27 科 54 種である。

[タクサの配列は、科以上については奥谷（2000）に従い、属以下はアルファベット順に掲載した。同定作業において種まで確定したタクソンのうち、南硫黄島新記録種の学名の先頭には※印を付した。新記録種であるか否かの判断は、西村（1988）、Fukuda（1993）、Fukuda（1994）および Fukuda（1995）を参考に行った。新記録種には生息環境および種の分布情報を備考として記した。分布記録は奥谷（2000）を参考とした。また、ドレッジサンプルは全てのソーティングが終了していないため、採集地点は全て D と表記し、地点名は省略した。]

Class POLYPLACOPHORA 多板綱

Order NEOLRICATA 新ヒザラガイ目

1. NEOLRICATA gen. et sp. 新ヒザラガイ目の一種

地点: SK01.

Class GASTROPODA 腹足綱

Order PATELLOGASTROPODA カサガイ目

Family NACERIDAE ヨメガカサガイ科

2. *Cellana enneagona* (Reeve, 1854) シワガサ

地点: IN01

Family LOTTIDAE ユキノカサガイ科

3. *Nipponacmea boninensis* (Asakura & Nishihama, 1987) オガサワラアオガイ
地点: SK01.

Order VETIGASTROPODA 古腹足目

Family TRYOCHIDAE ニシキウズガイ科

4. *Monodonta perplexa boninensis* Asakura & Nishihama, 1987 オオクロツケ
地点: IN01

5. ※*Clanculus clanguloides* (Wood, 1828) ナツモモ
地点: D.

備考: ドレッジにより海底から死殻が得られた。本種は房総半島・能登半島以南の潮下帯に分布する種である。

6. ※*Rossiteria nuclea* (Philippi, 1849) コノボリガイ
地点: D.

備考: ドレッジにより海底から生貝が得られた。本種は房総半島以南の潮下帯上部に分布する。

Family TURBINIDAE サザエ科

7. *Turbo (Marmarostoma) setosus* Gmelin, 1791 マルサザエ
地点: IN01

Order NERITIMORPHA アマオブネガイ目

Family NERITIDAE アマオブネガイ科

8. ※*Neritia (Heminerita) insculpta* Rècluz, 1842 リュウキュウアマガイ
地点: IN01

備考: 潮間帯の岩の暗部において生息が確認された。本種はトカラ列島以南の潮間帯に分布する。

9. ※*Neritia (Ritena) plicata* Linnaeus, 1758 キバアマガイ
地点: IN01

備考: 潮間帯の岩の暗部において生息が確認された。本種は屋久島以南の潮間帯に分布する種である。

Order DISCOPODA 盤足目

Family PLANAXIDAE ゴマフニナ科

10. *Hinea fasciata* (Pease, 1868) ヨコスジタマキビモドキ
地点: IN01

11. *Supplanaxis niger* (Quoy & Gaimard, 1834) クロタマキビモドキ
地点: IN01

Family LITTORINIDAE タマキビ科

12. *Nodilittorina trochoides* (Gray, 1839) イボタマキビ
地点: IN01
13. *Nodilittorina* sp. オガサワラタマキビ
地点: IN01
14. *Littoraria (Littoraria) pintado* (Wood, 1828) コウダカタマキビ
地点: IN01

Family STROMBIDAE ソデボラ科

15. ※*Lambis (Harpago) chiragra* (Linnaeus, 1758) スイジガイ
地点: SC01
備考: スクーバ潜水により、潮下帯の岩礁より生貝が得られた。本種は紀伊半島以南の熱帯インド・西太平洋域に広く分布する。

Family VERMETIDAE ムカデガイ科

16. *Dendropoma maximum* (Sowerby, 1825) フタモチヘビガイ
地点: SK01

Family CYPRAEIDAE タカラガイ科

17. ※*Cypraea (Purpuradusta) fimbriata fimbriata* Gmelin, 1791 ツمامラサキメダカラ
地点: D
備考: ドレッジにより、海底から死殻が得られた。本種は銚子以南の熱帯インド・西太平洋域の潮間帯下部から潮下帯に分布する。
18. *Cypraea (Mauritia) mauritiana* Linnaeus, 1758 ハチジョウダカラ
地点: IN01
19. *Cypraea (Luria) isabella Isabella* Linnaeus, 1758 ヤナギシボリダカラ
地点: D
20. *Cypraea (Erosaria) caputserpentis caputserpentis* Linnaeus, 1758 ハナマルユキ
地点: SK01
21. *Cypraea (Erosaria) poraria* Linnaeus, 1758 アヤメダカラ
地点: SK01

Family BURSIDAE オキニシ科

22. ※*Bursa bufonia dunkeri* Kira, 1962 オキニシ
地点: SK01
備考: 潮下帯の岩礁上に生息していた。本種は房総半島以南の熱帯インド・西太平洋域の潮間帯から潮下帯に分布する。

Order NEOGASTROPODA 新腹足目

Family MURICIDAE アッキガイ科

23. ※*Usira avenacea* (Lesson, 1842) シイノミレイシ
地点: IN01
備考: 潮間帯転石下の粗い砂が堆積した環境に生息していた。本種は四国以南の潮間帯に分布する。
24. *Drupa (Drupa) ricinus hadari* Emerson & Cernohorsky, 1973 シロイガレイシ
地点: SK01
25. *Thais (Semiricinula) muricata* (Blainville, 1816) テツレイシ
地点: IN01
26. *Thais (Stramonita) armigera* (Link, 1807) シラクモガイ
地点: SK01
27. ※*Habromorula striata* (Pease, 1868) クチムラサキレイシダマシ
地点: SK01
備考: 潮下帯の岩礁上に生息していた。本種は伊豆諸島以南の潮間帯から潮下帯に分布する。
28. *Morula granulata* (Duclos, 1924) レイシダマシ
地点: IN01
29. *Morula uva* (Röding, 1798) クロイボレイシダマシ
地点: SK01
30. *Drupa (Drupa) morum morum* Röding, 1798 ムラサキイガレイシ
地点: SK01
31. *Purpura persica* (Linnaeus, 1758) ホソスジテツボラ
地点: IN01
32. *Coralliophila madreporaria* (Sowerby, 1820-24) ヒトハサンゴヤドリ
地点: D

Family NASSARIIDAE ムシロガイ科

33. *Telasco velatus* (Gould, 1850) シイノミヨフバイ
地点: D

Family BUCCINIDAE エゾバイ科

34. ※*Cantharus (Pollia) undosa* (Linnaeus, 1758) スジグロホラダマシ
地点: SC01
備考: 潮下帯の転石下に生息していた。紀伊半島・八丈島以南に分布する。

Family FASCIOLARIIDAE イトマキボラ科

35. *Latirus polygonus* (Gmelin, 1791) リュウキュウツノマタガイ
地点: SC01

36. *Latirulus turritus* (Gmelin, 1791) スジグロニシキニナ

地点: SC01

Family CONIDAE イモガイ科

37. *Conus (Rhizoconus) rattus* Hwass in Bruguière, 1792 ハイイロミナシ

地点: SC01

38. ※*Conus (Darioconus) textile* Linnaeus, 1758 タガヤサンミナシ

地点: D

備考: ドレッジにより、潮下帯の海底から死殻を得た。本種は三宅島・紀伊半島・山口県北部以南の熱帯インド・西太平洋域の潮間帯から潮下帯に分布する。

39. ※*Conus (Rhizononus) capitaneus* Linnaeus, 1758 サラサミナシ

地点: D

備考: ドレッジにより、潮下帯の海底より生貝を得た。本種は三宅島・紀伊半島以南の熱帯インド・太平洋域の潮間帯から潮下帯に分布する。

40. *Conus* sp. 1 イモガイ属の一種

地点: SC01

41. *Conus* sp. 2 イモガイ属の一種

地点: SC01

Family TEREBRIDAE タケノコガイ科

42. ※*Acuminia penicillata* (Hinds, 1844) ヤナギシボリタケ

地点: D

備考: ドレッジにより、潮下帯の海底より生貝を得た。本種は紀伊半島以南の熱帯インド・太平洋域の潮間帯から潮下帯に分布する。

43. Terebridae gen. et. sp. タケノコガイ科の一種

地点: D

Order OPISTHOBRANCHIA 後鰓目

Family SMARAGDINELLIDAE ミドリガイ科

44. ※*Smaragdinella calyculata* (Broderip & Sowerby, 1829) ミドリガイ

地点: IN01

備考: 潮間帯の岩の壁面に生息していた。本種は紀伊半島以南の熱帯インド・太平洋域の潮間帯に分布する。

Family CHROMODORIDIDAE イロウミウシ科

45. ※*Chromodoris burni* Rudman, 1982 和名無し

地点: SC01

備考: 潮下帯の岩の表面に生息していた。C. burni はオーストラリア沿岸に分布するとされるが、

本調査で得られた個体の形態および色彩は Rudman (1982) の記載と良く一致することから、本種と同定した。

Family PHYLLIDIIDAE イボウミウシ科

46. ※*Phyllidiella pustulosa* (Cuvier, 1804) コイボウミウシ

地点: SC01; 地点: SC03

備考: 潮下帯の岩の表面に生息していた。本種は相模湾以南の熱帯インド・太平洋域の潮下帯に分布する。

Order PULMONATA 基眼目

Family SIPHONARIIDAE カラマツガイ科

47. ※*Siphonaria (Mestosiphon) subatra* Pilsbry, 1904 クロカラマツガイ

地点: IN01

備考: 潮間帯にある岩の表面に生息していた。本種は小笠原諸島から北マリアナ諸島の潮間帯に分布する。

Class BIVALBIA 二枚貝綱

Order ARCOIDA フネガイ目

Family ARCIDAE フネガイ科

48. *Acar plicata* (Dillwyn, 1817) コシロガイ

地点: D

Order OSTREOIDA カキ目

Family Spondylidae ウミギク科

49. Spondylidae Gen. et sp. ウミギク科の一種

地点: D

Order VENEROIDA マルスダレガイ目

Family TRIDACNIDAE シャコガイ科

50. *Tridacna maxima* (Röding, 1798) シラナミガイ

地点: SC03

Family Tellinidae ニッコウガイ科

51. Tellinidae Gen. et sp. 1 ニッコウガイ科の一種

地点: D

52. Tellinidae Gen. et sp. 2 ニッコウガイ科の一種

地点: D

Family VENERIDAE マルスダレガイ科

53. ※*Periglypta reticulata* (Linnaeus, 1758) アラヌノメガイ

地点: D

Class CEPHALOPODA 頭足綱

Order OCTOPODA 八腕形目

Family OCTOPODIDAE マダコ科

54. ※*Octopus oliveri* (Berry, 1914) アナダコ

地点: IN01

備考: 潮間帯の岩礁上に生息していた。本種は小笠原諸島および琉球列島の潮間帯に分布する。

3-2. 甲殻類

標本を採取した甲殻類は、未同定種を含め4科9種であった。

[同定作業において種まで確定したタクソンのうち、南硫黄島新記録種の学名の先頭には※印を付した。新記録種の判別は、武田(1983)および東京都水産試験場(1994)を参考に行った。新記録種には生息環境および分布情報を備考として付した。]

Class MALACOSTRACA 軟甲綱

Order DECAPODA 十脚目

Family COENOBITIDAE オカヤドカリ科

1. ※*Birgus latro* (Linnaeus, 1767) ヤシガニ

地点: IN01

備考: 潮上帯において生息が確認された。本種は与論島からマイクロネシア・メラネシア、オーストラリア沿岸、マダガスカル、アフリカ東部までのインド洋沿岸各地と島嶼域に分布する(武田、1995)。小笠原諸島における公式記録がみあたらないが、父島属島の南島において発見事例がある(堀越、私信)。

2. ※*Coenobita perlatus* H. Milne Edwards. 1837 サキシマオカヤドカリ

地点: IN01

備考: 潮上帯において生息が確認された。本種は西太平洋の熱帯域に広く分布する。国内では父島、北硫黄島、南鳥島、石垣島、黒島から分布記録が報告されている(藤田、2005)。本種は環境省のレッドリストにおいて絶滅危惧Ⅱ類(VU)に区分されている。また、国指定天然記念物である。

3. ※*Coenobita purpureus* Stimpson, 1858 ムラサキオカヤドカリ

地点: IN01

備考: 潮上帯において生息が確認された。中曽根(1987)によると、本種は日本固有種と考えられ、小笠原諸島、鹿児島、奄美・沖縄・宮古・八重山諸島に分布するとされる。本種は国指定天然記念物である。

Family RANINIDAE アサヒガニ科

4. Raninidae gen. et sp. アサヒガニ科の一種

地点: D

Family XANITHIDAE オウギガニ科

5. Xanithidae gen. et sp. オウギガニ科の一種

地点: IN01

Family GRPSIDAE イワガニ科

6. ※*Geograpsus crinipes* (Dana, 1851) オオカクレイワガニ

地点: IN01

備考: 潮間帯上部から潮上帯において生息が確認された。本種はハワイ、南太平洋、インド洋、紅海、アフリカ東岸に広く分布し、国内では奄美大島以南から分布記録がある。

7. *Geograpsus grayi* (H. Milne Edwards, 1853) カクレイワガニ

地点: IN01

8. *Grapsus tenuicrustatus* (Herbst, 1783) オオイワガニ

地点: IN01

9. ※*Plagusia tuberculata* Lamarck, 1818 イボショウジンガニ

地点: IN01

備考: 潮間帯の岩の表面において生息を確認した。本種はハワイ、南太平洋、チリ、インド洋、アフリカ東岸に広く分布し、国内では房総半島以南から分布記録がある。

3-3. 魚類

確認した魚類は、以下に示す22科63種であった。

[科以上のタクサの配列は、中坊(2000)に従い、属以下はアルファベット順とした。確認した地点および同定の根拠とした資料(写真、映像および標本)の別を記した。小笠原諸島の魚類相は、座間・藤田(1977)、Zama & Yasuda(1979)、Randall et al.(1977)においてリスト化されているが、各種の分布情報は不明な点が多いため、現段階では南硫黄島新記録・既記録の別の判断を保留した。]

Class CHONDRICHTHYES 軟骨魚綱

Order CARCHARHINIFORMES メジロザメ目

Family CARCHARHINIDAE メジロザメ科

1. *Triaenodon obesus* (Rüppell, 1837) ネムリブカ

地点: SC01. 同定: 画像 ; 地点: SC02. 同定: 画像

Class OSTEICHTHYES 硬骨魚綱

Order ANGUILLIFORMES ウナギ目

Family MURAENIDAE ウツボ科

2. *Uropterygius* sp. キカイウツボ属の一種

地点: IN01. 同定: 液浸標本

Family SERRANIDAE ハタ科

3. *Cephalopholis argus* Block & Schneider, 1801 アオノメハタ

地点: SC01. 同定: 映像

4. *Cephalopholis urodeta* (Forster in Bloch & Schneider, 1801) ニジハタ

地点: SC01. 同定: 映像

5. *Epinephelus fasciatus* (Forsskål, 1775) アカハタ

地点: SC01. 同定: 画像

Family CARANGIDAE アジ科

6. *Caraux lugubris* Poey, 1860 カッポレ

地点: SC03. 同定: 画像

7. *Caraux melampygus* Cuvier, 1833 カスマアジ

地点: SK01. 同定: 画像

Family LUTJANIDAE フェダイ科

8. *Luthanus bohar* (Forsskål, 1775) バラフェダイ

地点: SC01. 同定: 映像 ; 地点: SC02. 同定: 画像 ; 地点: SK01. 同定: 映像

9. *Luthanus kasmira* (Forsskål, 1775) ヨスジフェダイ

地点: SC01. 同定: 映像

10. *Luthanus stellatus* Akazaki, 1983 フェダイ

地点: SC01. 同定: 映像 ; 地点: SK01. 同定: 映像

Family CAESIONIDAE タカサゴ科

11. *Caesio teres* Seale, 1906 ウメイロモドキ

地点: SC03. 同定: 画像

12. *Pterocaesio tile* (Cuvier, 1830) クマザサハナムロ

地点: SC01. 同定: 映像

Family LETHRINIDAE フェフキダイ科

13. *Gnathodentex aureolineatus* (Lacepède, 1802) ノコギリダイ

地点: SC01. 同定: 映像

Family MULLIIDAE ヒメジ科

14. *Parupeneus bifasciatus* (Lacepède, 1801) フタスジヒメジ

地点: SC01. 同定: 画像 ; 地点: SC02. 同定: 画像

15. *Parupeneus multifasciatus* (Quoy & Gaimard, 1824) オジサン
地点: SC01. 同定: 画像

Family KYOPHOSIDAE イスズミ科

16. *Kyophosus pacificus* Sakai & Nakabo, 2004. ミナミイスズミ
地点: SC01. 同定: 映像 ; 地点 SK01. 同定: 映像

Family CHAETODONTIDAE チョウチョウウオ科

17. *Chaetodon auriga* Forsskål, 1775 トゲチョウチョウウオ
地点: SC03. 同定: 画像 ; 地点: SK01. 同定: 映像
18. *Chaetodon deadalma* Jordan & Fowler, 1902 ユウゼン
地点: SC01. 同定: 画像
19. *Chaetodon lumula* (Lacepède, 1803) チョウハン
地点: SC01. 同定: 映像
20. *Chaetodon ornatissimus* Cuvier, 1831 ハナグロチョウチョウウオ
地点: SK01. 同定: 映像 ; 地点: SC02. 同定: 画像
21. *Chaetodon quadrimaculatus* Gray, 1831 シテンチョウチョウウオ
地点: SC01. 同定: 映像 ; 地点: SK01. 同定: 画像
22. *Chaetodon reticulatus* Cuvier, 1831 ハクテンカタギ
地点: SK01. 同定: 画像
23. *Forcipiger flabissimus* Jordan & McGregor, 1898 フエヤッコダイ
地点: SC03. 同定: 画像

Family POMACANTHIDAE キンチャクダイ科

24. *Centropyge flavissima* (Cuvier, 1831) コガネヤッコ
地点: SC01. 同定: 画像
25. *Pomacanthus imperator* (Bloch, 1787) タテジマキンチャクダイ
地点: SC01. 同定: 映像 ; 地点: SC02. 同定: 画像

Family OPLEGNATHIDAE イシダイ科

26. *Oplegnathus punctatus* (Temminck & Schlegel, 1844) イシガキダイ
地点: SC01. 同定: 映像

Family POMACENTRIDAE スズメダイ科

27. *Abudefduf sordidus* (Forsskål, 1775) シマスズメダイ
地点 SK01. 同定: 映像
28. *Abudefduf vaiginensis* (Quoy & Gaimard, 1824) オヤビッチャ
地点 SK01. 同定: 画像

29. *Chromis acares* Randall & Swerdloff, 1973 コビトスズメダイ
 地点 SK01. 同定: 画像
30. *Plectroglyphidodon imparipennis* (Vaillant & Sauvage, 1875) イワサキスズメダイ
 地点: SK01. 同定: 画像
31. *Plectroglyphidodon johnstonianus* Fowler & Ball, 1924 ルリメイシガキスズメダイ
 地点 SC02: 画像 ; SK01. 同定: 映像
32. *Plectroglyphidodon phenixensis* フェニックススズメダイ
 地点 SK01. 同定: 映像

Family CIRRHITIDAE ゴンベ科

33. *Cirrhitichthys falco* Randall, 1963 サラサゴンベ
 地点: SC01. 同定: 画像
34. *Neocirrhites armatus* Castelnau, 1873 ベニゴンベ
 地点: SC01. 同定: 映像 ; 地点: SC02. 同定: 画像
35. *Paracirrhites arcatus* (Cuvier, 1829) メガネゴンベ
 地点: SC01. 同定: 映像
36. *Paracirrhites forsteri* (Bloch & Schneider, 1801) ホシゴンベ
 地点: SC01. 同定: 映像

Family LABRIDAE ベラ科

37. *Bodianus axillaris* (Bennett, 1831) スミツキベラ
 地点: SC03. 同定: 画像
38. *Bodianus bilunulatus* (Lacepède, 1802) キツネベラ
 地点: SC01. 同定: 画像
39. *Gomphosus varius* Lacepède, 1801 クギベラ
 地点: SC01. 同定: 画像
40. *Halichoeres orientalis* Randall, 1999 ツキベラ
 地点: SC01. 同定: 画像
41. *Labroides dimidiatus* (Valenciennes, 1839) ホンソメワケベラ
 地点: SC01. 同定: 映像
42. *Thalassoma amblycephalum* (Bleeker, 1856) コガシラベラ
 地点: SC03. 同定: 画像
43. *Thalassoma lutescens* (Lay & Bennett, 1839) ヤマブキベラ
 地点: SC01. 同定: 映像 ; 地点: SC02. 同定: 画像

Family SCARIDAE ブダイ科

44. *Scarus forsteni* (Bleeker, 1861) イチモンジブダイ
 地点: SC01. 同定: 映像 ; 地点: SK01. 同定: 画像

Family PINGUIPEDIDAE トラギス科

45. *Parapercis millepunctata* (Günther, 1860) ワヌケトラギス
地点: SC03. 同定: 画像

Family GOBIIDAE ハゼ科

46. *Nemateleotris magnifica* (Fowler, 1938) ハタタテハゼ
地点: SC01. 同定: 映像
47. *Valenciennea strigata* (Broussonet, 1782) アカハチハゼ
地点: SC01. 同定: 画像

Family ZANCLIDAE ツノダシ科

48. *Zanclus cornutus* (Linnaeus, 1758) ツノダシ
地点: SC01. 同定: 映像

Family ACANTHURIDAE ニザダイ科

49. *Acanthurus guttatus* Schneider, 1801 ゴマニザ
地点: SK01. 同定: 映像
50. *Acanthurus leucopareius* (Linnaeus, 1758) メガネクロハギ
地点: SK01. 同定: 映像
51. *Acanthurus lineatus* (Linnaeus, 1758) ニジハギ
地点: SC03. 同定: 画像
52. *Acanthurus nigricans* (Jenkins, 1903) スジクロハギ
地点: SC01. 同定: 映像 ; 地点 SC03. 同定: 画像 ; 地点 SK01. 同定: 画像
53. *Acanthurus olivaceus* Forster in Bloch & Schneider, 1801 モンツキハギ
地点: SC01. 同定: 映像 ; 地点: SC03. 同定: 画像
54. *Naso lituratus* (Schneider, 1801) ミヤコテングハギ
地点: SC03. 同定: 画像
55. *Naso maculatus* Randall & Struhsaker, 1981 ゴマテングハギモドキ
地点: SC01. 同定: 映像
56. *Zebrasoma flavescens* (Bennett, 1828) キイロハギ
地点: SC01. 同定: 映像

Family BALISTIDAE モンガラカワハギ科

57. *Balistides conspicillum* (Block & Schneider, 1801) モンガラカワハギ
地点: SC01. 同定: 映像
58. *Balistides viridescens* (Block & Schneider, 1801) ゴマモンガラ
地点: SC01. 同定: 映像

59. *Merlichthys vidua* (Solander, 1844) クロモンガラ

地点: SC01. 同定: 映像 : 地点: SC02. 同定: 画像

60. *Odonus niger* (Rüppell, 1837) アカモンガラ

地点: SC01. 同定: 映像

61. *Sufflamen bursa* (Block & Schneider, 1801) ムスメハギ

地点: SC01. 同定: 映像

Family TETRAODONTIDAE フグ科

62. *Arothron meleagris* (Lacepède, 1798) ミゾレフグ

地点: SC01. 同定: 画像

63. *Canthigaster janthinoptera* (Bleeker, 1855) シボリキンチャクフグ

地点: SC01. 同定: 画像

4. 考察

4-1. 潮上帯

潮上帯からは、南硫黄島初記録となるヤシガニ、サキシマオカヤドカリの生息が確認された。両種はこれまでに小笠原群島からも僅かに発見例がある（堀越、私信）。しかし、発見頻度を考慮すると、群島外から偶発的に幼生が加入し、定着・成長した個体であり、再生産は行っていないと推測される。サキシマオカヤドカリは調査例の少ない北硫黄島や南鳥島においても発見されており、本調査でも得られた。これら南方系の陸生甲殻類が南硫黄島において再生産しているか否かは不明だが、小笠原群島と比較して定着頻度は高い可能性が考えられる。

4-2. 潮間帯

南硫黄島の潮間帯基質は、崩落による巨岩および直径20~30cm程の玉石で構成されていた。潮間帯の上部から中部では、イボタマキビ、コウダカタマキビ、オガサワラタマキビがみられた。また、潮間帯中部から下部においては、シワガサ、オガサワラアオガイ、オオクロヅケ、クロタマキビモドキなどが多産していた。これらは、小笠原群島の父島や母島の波あたりの強い海岸における典型的な構成種であり、内湾性の普通種を欠いている。また、小笠原群島の同環境において普通にみられるカサガイおよびクサイロイシダタミの生息はまったく確認できず、死殻すら発見できなかった。カサガイは西村（1987）により北硫黄島から発見されているが、それ以前や以降の調査では発見されていないため、北硫黄島における本種の生息は偶因分散であった可能性が指摘されている（堀越ら、1997）。西村（1987a; 1987b; 1988）は、南硫黄島を含む火山列島において、Kurozumi & Asakura（1994）は北マリアナ諸島において包括的な貝類相調査を行ったが、カサガイおよびクサイロイシダタミを記録していない。これら2種の貝類は火山列島において定常的には生息しておらず、2種の分布の南限は火山列島に達していない可能性が高いと考えられる。

潮間帯に生息する貝類以外の生物において特筆すべきは、キカイウツボ属の一種である。本種は吻部が著しく隆起している形態学的特徴を持つが、Randall *et al.*（1997）による小笠原諸島産魚類のモノグラフには該当する種が掲載されていない。現在同定作業を継続しているが、同諸島の未記録種であ

る可能性もある。本種は潮間帯の玉石の間隙に生息しており、打ち上げられた魚類の死体などを同所に浸すと、すぐに5匹以上が集まり死体に噛みついてきた。南硫黄島の玉石海岸は波浪の影響を強く受けるためか、石と石の間隙には砂が堆積しておらず空間となっている。このような環境は南硫黄島の周縁全てにみられることから、本種の生息個体数は相当の数に上ると考えられる。本種は南硫黄島の特徴的な海岸環境に適応し、恐らくカニ類や打ち上げられた生物を食し、南硫黄島の海岸部の物質循環において無視できない地位にあるものと考えられる。

4-3. 潮下帯

潮下帯は、概してサンゴ礁の発達が悪く、観察された造礁サンゴ類は小型であった。水深15m付近では、準塊状であるハナヤサイサンゴ属の各種や被覆状のナガレサンゴ等が主要な生育種であった。3~5mの浅場では、被覆状もしくは準塊状のミドリイシ類が優占していた。いずれの地点も、波浪に強いと考えられる形状の造礁サンゴで占められており、外洋の潮流にさらされる南硫黄島沿岸の海洋環境をあらわしているといえる。造礁サンゴが生育する根にはサンゴ礁性の魚類が群れていた。シテンチョウチョウウオやハクテンカタギなど、小笠原群島では希で、マリアナ諸島において多いとされる種も確認されたが、魚類の多くは小笠原群島と共通する種で占められていた。

4-4. 南硫黄島沿岸の海洋生物相

火山列島の他の島は南硫黄島同様の玉石海岸がみられる上、北硫黄島には小規模なリーフが存在し、硫黄島では砂浜海岸が発達している。湾や入り江が存在せず、島一周が玉石海岸である南硫黄島の海岸環境は、火山列島内においても単純といえる。南硫黄島沿岸の海洋生物相の特徴を現段階で言及するならば、小笠原諸島の他の島と比較して環境が単純であるために構成種に偏りがあること、一部の小笠原群島特産種の分布南限から外れていること、より南方系の種を一部含んでいることである。

5. 謝辞

ダイビングサービス海神の山田鉄也氏、世拓丸の国分世拓船長には、現場において調査作業を強力にサポートして頂いた。東京海洋大学の土屋光太郎博士、千葉県立中央博物館・海の分館の立川浩之氏には調査の計画段階からご助言頂いた。また、東京海洋大学の茂木正人博士には、魚類標本の一部を同定頂いた。東京海洋大学水産生物研究会の葛西直子、小林未央、三宅友香、鈴木啓司氏には、採集標本のソーティングをお手伝い頂いた。以上の各氏をはじめ、調査に協力頂いた全ての方々に深謝する。

6. 引用文献

- 藤田喜久 (2005) サキシマオカヤドカリ. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 (動物編) - レッドデータおきなわ、沖縄県文化環境部自然保護課、pp. 196-197.
- Fukuda, H. (1993) Marine Gastropoda (Mollusca) of the Ogasawara (Bonin) Islands Part 1: Archaeogastropoda and Neotaenioglossa. *Ogasawara Research*, 19, 85p.
- Fukuda, H. (1994) Marine Gastropoda (Mollusca) of the Ogasawara (Bonin) Islands Part 2: Neogastropoda, Heterobranchia and Fossil Species, with Faunal Accounts. *Ogasawara Research*, 20, 126p.

- Fukuda, H. (1995) Marine Gastropoda (Mollusca) of the Ogasawara (Bonin) Islands Part 3: Additional Records. *Ogasawara Research*, 21, 142p.
- 堀越和夫・立川浩之・黒住耐二 (1997) カサガイ. 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料 (IV)、財団法人日本水産資源保護協会、pp. 22-30.
- Kurozumi, T. & Asakura, A. (1994) Marine Molluscs from the Northern Mariana Islands, Micronesia. *Natural History Research*, Special Issue 1, pp. 121-165.
- 中坊徹次 (編) (2000) 『日本産魚類検索 全種の同定 第二版』東海大学出版会、1818p.
- 中曾根幸男 (1987) 沖縄県産オカヤドカリ属の分類. 沖縄県天然記念物調査シリーズ 第29集 オカヤドカリ生息実態調査報告 あまん、沖縄県教育委員会、pp. 3-15.
- 西村和久 (1987a) 小笠原諸島の貝類-I. 北硫黄島. ちりぼたん、18 (2), pp.29-34.
- 西村和久 (1987b) 小笠原諸島の貝類-II. 硫黄島. ちりぼたん、18 (3-4), pp.93-98.
- 西村和久 (1988) 小笠原諸島の貝類-III. 南硫黄島. ちりぼたん、19 (3), pp.49-52.
- 奥谷喬司 (編) (2000) 『日本近海産貝類図鑑』東海大学出版会、1173p.
- Randall, J. E., Ida, H., Kato, K., Pyle, R. L. and Earle, J. E. (1997) Annotated Checklist of the Ogasawara Islands. *National Science Museum Monographs*, 11, 74p.
- Rudman, W. B. (1982) The Chromodorididae (Opisthobranchia: Mollusca) of the Indo-West Pacific: *Chromodoris quadricolor*, *C. lineolata* and *Hypselodoris nigrolineata* colour groups. *Zoological Journal of the Linnean Society*, 76, pp. 183-241.
- 武田正倫 (1983) 南硫黄島の陸生カニ類2種. 南硫黄島の自然、環境庁自然保護局 (編) 日本野生生物研究センター、pp. 379-382.
- 武田正倫 (1995) ヤシガニ. 日本の希少な水生生物に関する基礎資料 (II)、日本水産資源保護協会、pp. 625-630.
- 東京都水産試験場 (1994) 小笠原海域天然礁調査報告書 (硫黄島・南硫黄島浅海漁場調査)、東京都水産試験場調査報告、208, 66p.
- 座間 彰・藤田 清 (1977) 小笠原諸島産魚類目録. *Journal of Tokyo University of Fisheries*, 63 (2), pp. 87-138.
- Zama, A. and Yasuda, F. (1979) An Annotated List of Fishes from the Ogasawara Islands-Supplement I, with Zoogeographical Notes on the Fish Fauna. *Journal of Tokyo University of Fisheries*, 65 (2), pp. 139-163.

Summary

The fauna of mollusca, crustaceans and fish were investigated around the coastal waters of the Minami-Iwo-To Island. Although the identification work has not been completed yet, a total of 53 species of mollusca of 27 families, nine species of crustaceans of four families, 63 species of fish of 22 families were recorded so far. Many species were found as new records from the Minami-Iwo-To Island, however, most of them were reported from the Ogasawara Island Group.

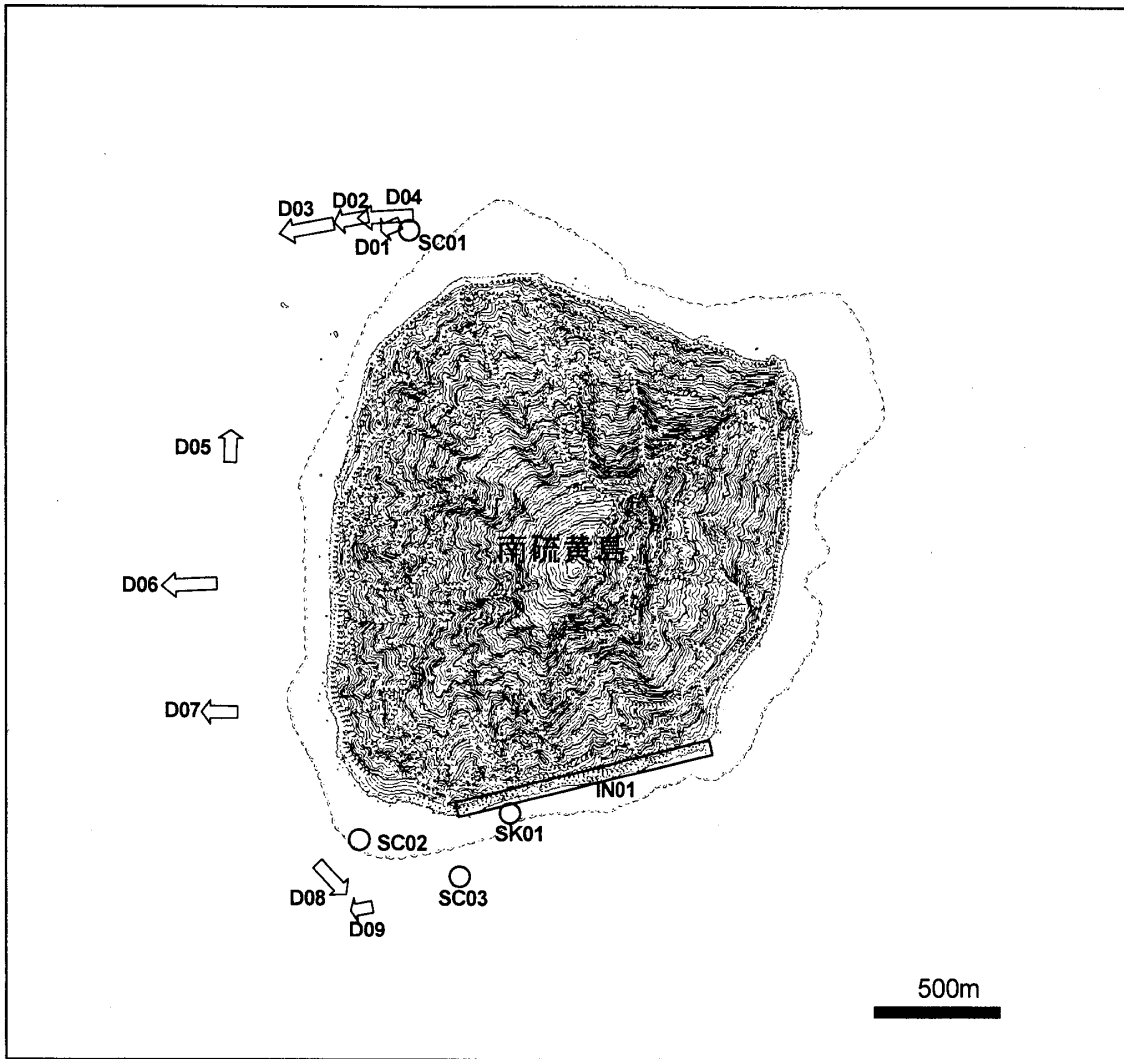


図1. 調査地点.

Figure 1. Map of the study area of the Minami-Iwo-To Island.